

Pervasive Backup Agent

Pervasive Backup Agent Guide

PERVASIVE®

免責事項

Pervasive Software Inc. は、本ソフトウェアおよびドキュメントの使用を、利用者またはその会社に対して「現状のまま」で、かつ同梱の使用許諾契約書に記載の契約条件によってのみ許諾するものです。Pervasive Software Inc. は、いかなる場合にも本ソフトウェアおよび本マニュアルに記載された内容に関するその他の一切の保証を、明示的にも黙示的にも行いません。Pervasive Software Inc. は、市場性、権利、特定の目的に対する適合性、あるいは一連の取引業務や職業的な使用に関する問題などに対し、一切の保証を行わないことを明示するとともに、利用者およびその会社がこれに同意したものとします。

商標

Btrieve、Client/Server in a Box、Pervasive、Pervasive Software、Pervasive DataExchange および Pervasive Software と Pervasive DataExchange のロゴは、Pervasive Software Inc. の商標または登録商標です。

Built on Pervasive Software、Pervasive AuditMaster、"know who's doing what to your data when, where and how"、MicroKernel Database Engine、MicroKernel Database Architecture、Pervasive.SQL、Pervasive PSQL、Solution Network、Ultralight および ZDBA は Pervasive Software Inc. の商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows 95、Windows 98、Windows NT、Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003、Win32、Win32s、および Visual Basic は、Microsoft Corporation の登録商標です。

NetWare および Novell は Novell, Inc の登録商標です。NetWare Loadable Module、NLM、Novell DOS、Transaction Tracking System および TTS は Novell, Inc の商標です。

Regex++ ライブラリの著作権（1998-2001）は Dr John Maddock 氏に帰属します。

すべての会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

© Copyright 2008 Pervasive Software Inc. All rights reserved. このマニュアルの全文、一部に関わりなく複製、複写、配布をすることは、前もって発行者の書面による同意がない限り禁止します。

目次

このマニュアルについてix
このマニュアルの読者x
このマニュアルの構成xi
表記上の規則xii

インストール

1 Pervasive Backup Agent へようこそ1-1
Pervasive Backup Agent の概要	
Pervasive Backup Agent の概要1-2
本製品の機能1-2
Backup Agent コンポーネント1-3
コマンドライン ユーティリティ1-3
GUI ユーティリティ1-3
コントローラ1-3
一貫性保守可能なファイル リスト1-4
除外対象ファイル リスト1-4
イベント ハンドラ1-4
ログ ファイル1-4
ソフトウェア開発キット (SDK)1-5
Backup Agent ライセンス1-6
2 Pervasive Backup Agent のインストール2-1
Pervasive Backup Agent のインストール方法	
Backup Agent インストールの概要2-2
Backup Agent のインストール場所2-2
Backup Agent インストール チェックリスト2-3
事前の注意2-3
Backup Agent Pervasive PSQL エンジン要件2-3
Backup Agent Readme ファイル2-4
事前の確認2-5
Windows プラットフォームに関する注記2-5
Pervasive Backup Agent のインストール2-6
Backup Agent Readme ファイルの表示2-7
Backup Agent のインストール後に行うこと2-8

目次

Backup Agent のインストール後の操作に関する一般的な質問	2-9
アプリケーションの一部としての Backup Agent のインストール	2-11
Backup Agent のサイレント インストールの実行方法	2-11
Pervasive Backup Agent のアンインストール	2-12

User's Guide

3 Pervasive Backup Agent の使用 3-1

Pervasive Backup Agent 使用方法のリファレンス

Continuous オペレーションの概要	3-2
Continuous オペレーションの開始	3-2
Continuous オペレーションの終了	3-2
Backup Agent を使用する理由	3-3
Backup Agent 使用前の注意	3-4
アーカイブ ロギング	3-4
テンポラリ ファイル	3-5
読み取り専用ディレクトリのファイル	3-6
読み取り専用ファイル	3-6
Backup Agent のリモート操作	3-6
その他のユーティリティの使用	3-6
パフォーマンスの問題	3-7
リカバリ スタートアップ タイムアウト	3-7
システム障害	3-8
ファイルを Continuous オペレーションの対象外に設定する	3-9
Backup Agent コマンド ライン インターフェイスの使用法	3-11
Backup Agent (CLI) を有効にする	3-11
Backup Agent (CLI) を無効にする	3-11
Backup Agent (CLI) ステータスの要求	3-11
Backup Agent (CLI) ヘルプの表示	3-12
お使いのバックアップ ソフトウェアへの組み込み	3-12
Backup Agent グラフィカル ユーザー インターフェイスの使用法	3-14
Backup Agent (GUI) ユーティリティの開始	3-14
Backup Agent (GUI) を有効にする	3-15
Backup Agent (GUI) を無効にする	3-16
Backup Agent (GUI) ログ ファイルを表示する	3-17
Backup Agent (GUI) オンライン ヘルプの表示	3-18
Backup Agent (GUI) ユーティリティの終了	3-18

補足情報

A	プログラマーズ リファレンス	A-1
	Pervasive Backup Agent API リファレンス	
	PvBackupSetOn()	A-2
	PvBackupSetOff()	A-3
	PvBackupGetStatus()	A-4
	PvBackupGetLogDir()	A-5
	PvBackupGetLogDirW()	A-6
B	Pervasive Software のリソースおよび問い合わせ先	B-1
	Pervasive Software カスタマ情報リソースのご案内	
	使用可能なリソース	B-2



3-1	PCC の初期画面.	3-4
3-2	PCC でのアーカイブ ロギングの設定	3-5
3-3	Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ	3-14
3-4	Backup Agent を PCC から起動する.	3-15
3-5	Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ	3-15
3-6	Pervasive Backup Agent の有効化	3-16
3-7	変更のロール イン ステータス メッセージ	3-16
3-8	Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ	3-17
3-9	Backup Agent Log Viewer.	3-17
3-10	Backup Agent の終了	3-18
3-11	変更のロール イン中に Backup Agent を終了する確認メッセージ	3-19

このマニュアルについて

このマニュアルでは **Pervasive Backup Agent** で作業を行うための手順を詳しく説明します。インストール要件およびインストール手順、本製品の使用方法、さらに **Backup Agent** テクノロジをアプリケーションに組み込むためのリファレンス情報を記載しています。また、インストールに関する一般的な質問に対する回答も記載しています。

このマニュアルの読者

このマニュアルは、Pervasive Backup Agent をインストールおよび使用するユーザーを対象としています。また、Pervasive PSQl データベースのライブバックアップ作業を担当するプログラマやシステム管理者にも役立ちます。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章に分かれています。

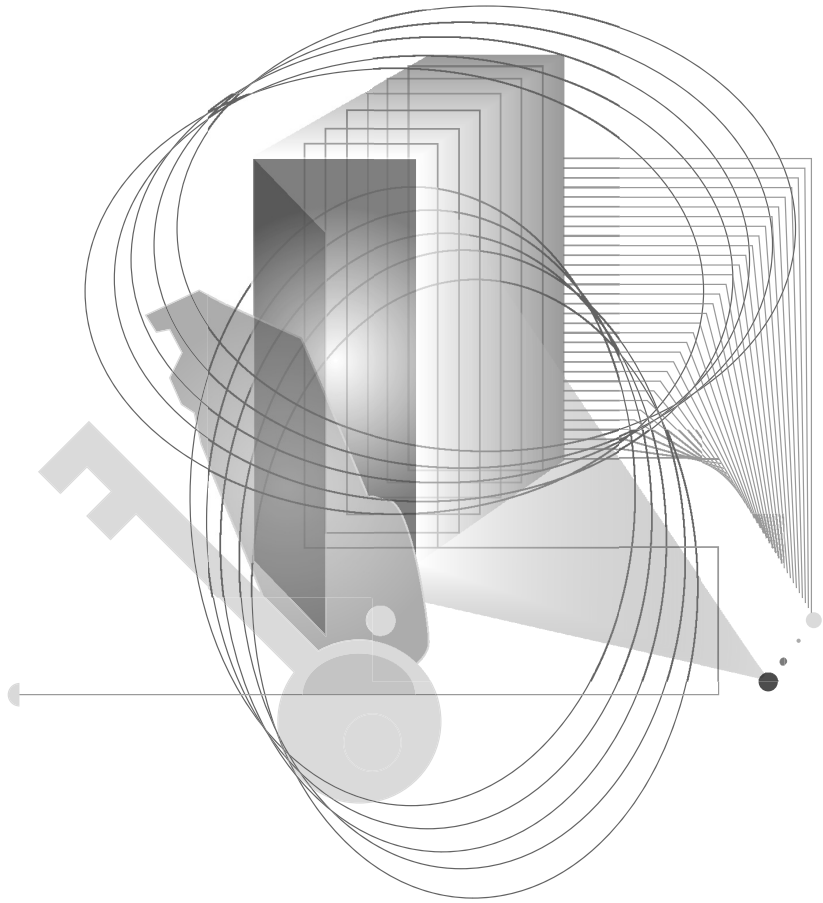
- 第1章 「Pervasive Backup Agent へようこそ」
この章では、Pervasive Backup Agent の概要について説明します。
- 第2章 「Pervasive Backup Agent のインストール」
この章では、Pervasive Backup Agent のシステム要件とインストール手順について説明します。
- 第3章 「Pervasive Backup Agent の使用」
この章では、Backup Agent を使って Pervasive PSQL データベースのライブバックアップを管理する方法について説明します。
- 付録 A 「プログラマーズ リファレンス」
この付録では、Pervasive Backup Agent アプリケーションプログラミング インターフェイス用のリファレンス情報を提供します。
- 付録 B 「Pervasive Software のリソースおよび問い合わせ先」
この付録では、Pervasive Software への問い合わせ情報を提供しています。

このマニュアルの巻末には索引が用意されています。

表記上の規則

特段の記述がない限り、コマンド構文、コード、およびコード例では、以下の表記が使用されます。

大文字小文字の 区別	通常、コマンドと予約語は、大文字で表記されます。本書で別途記述がない限り、これらの項目は大文字、小文字、あるいはその両方を使って入力できます。たとえば、MYPROG、myprog、またはMYprogと入力することができます。
太字	太字で表示される単語には次のようなものがあります。メニュー名、ダイアログ ボックス名、コマンド、オプション、ボタン、ステートメントなど。
固定幅フォント	固定幅フォントは、コマンド構文など、ユーザーが入力するテキストに使われます。
[]	省略可能な情報には、 <code>[log_name]</code> のように、角かっこが使用されます。角かっこで囲まれていない情報は必ず指定する必要があります。
	縦棒は、 <code>[file name @file name]</code> のように、入力する情報の選択肢を表します。
< >	<code><></code> は、 <code>/D=<5 6 7></code> のように、必須項目に対する選択肢を表します。
変数	<code>file name</code> のように斜体で表されている語は、適切な値に置き換える必要のある変数です。
...	<code>[parameter...]</code> のように、情報の後に省略記号が続く場合は、その情報を繰り返し使用できます。
::=	記号 <code>::=</code> は、ある項目が別の項目用語で定義されていることを意味します。たとえば、 <code>a::=b</code> は、項目 <code>a</code> が <code>b</code> で定義されていることを意味します。



インストール

Pervasive Backup Agent へ ようこそ

1

Pervasive Backup Agent の概要

Pervasive Backup Agent をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
Backup Agent では、Pervasive PSQL で使用されている Continuous オペレーション機能の実装に対する代替方法を提供します。

ここでは、以下の項目について説明します。

- 「Pervasive Backup Agent の概要」 (1-2 ページ)
- 「Backup Agent コンポーネント」 (1-3 ページ)
- 「Backup Agent ライセンス」 (1-6 ページ)

Pervasive Backup Agent の概要

Pervasive Backup Agent を使用すれば、Pervasive PSQL データベース ファイルに対する Continuous オペレーションの設定と管理を簡単かつ迅速に行うことができます。Continuous オペレーションの設定や管理は Pervasive PSQL データベースのバックアップを行う際の重要な部分です。Backup Agent では、開いているファイルに対する Continuous オペレーションの設定と管理を自動的に処理し、データがバックアップ中でもアプリケーションからそのデータが使用できるようにします。バックアップ作業が完了すると、Backup Agent はファイルに対する Continuous オペレーションを自動的に解除し、バックアップ中にキャプチャされたすべての変更をロール インします。

本製品の機能

Pervasive Backup Agent は、現在市場で数多く販売されている一般的なバックアップ アプリケーションとシームレスに動作します。

特定のファイル名のリストを入力する必要がある Pervasive PSQL ユーティリティの Continuous オペレーション機能とは異なり、Pervasive Backup Agent は、自動的に開かれているファイルをバックアップ可能にし、Pervasive Backup Agent 実行中に開かれたファイルも自動的にバックアップ可能にします。

Pervasive PSQL サーバーと Backup Agent を共にインストールし、そのエージェントを実装してお使いのバックアップ ルーチンで動作させれば、Pervasive PSQL データベースのバックアップを開始する準備が整います。特別な設定は必要ありません。



メモ Pervasive Backup Agent 自身が Pervasive PSQL データベース ファイルをバックアップするわけではありません。これは現在のバックアップ ソリューションを補足することを目的にデザインされています。

Backup Agent コンポーネント

このセクションでは、Pervasive Backup Agent を構成するコンポーネントについて説明します。Software Developer's Kit (SDK) に付属している 2 つのユーティリティ コンポーネントは、ビジネスのニーズに応じて、お使いのバックアップ ルーチンにエージェントを簡単に組み込む 3 つの方法を提供します。

コマンドライン ユーティリティ

コマンドライン インターフェイス (CLI) ユーティリティ (pvbackup.exe) は、Backup Agent によって提供されるアクセス方法の 1 つです。市場で販売されている一般的なバックアップ製品で実装する場合は、実行可能コマンドを事前コマンドおよび事後コマンド設定に追加するだけです。この実装によって、お使いのバックアップ ソフトウェアはバックアップを行う前にエージェントを開始し、バックアップが完了した後にエージェントを停止します。この方法を使用すれば、定期的なバックアップにおいて Pervasive PSQL データの一貫性と信頼性が確実に保持されます。

コマンドライン ユーティリティは、Windows プラットフォームの 32 ビットと 64 ビットのマシンで使用できます。

GUI ユーティリティ

Backup Agent におけるもう 1 つのアクセス方法は、グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) ユーティリティ (pvbackupgui.exe) です。これは [スタート] メニューから、または Pervasive Control Center 内からアクセスすることができます。このインターフェイスでは、ボタンをクリックするだけでエージェントを開始および停止することができます。コマンドライン インターフェイスで要求されるようなコマンドやパラメータを呼び出す必要はありません。この方法を使用すれば、Pervasive PSQL データのアドホックなバックアップをいつでも自由に行うことができます。特別な設定はほとんど必要ありません。

コントローラ

Pervasive Backup Agent のコントローラ コンポーネントはエージェントの各種ユーティリティに共通するインターフェイスを提供する DLL で構成されています。このコントローラはイベント ハンドラとの通信をすべて処理します。

一貫性保守可能なファイル リスト

一貫性保守可能なファイル リスト (df1.txt) は、本プログラムのデータパス内に置かれるもので Pervasive Backup Agent によって生成されます。データパスのデフォルトのロケーションは、インストールの際 <Pervasive PSQI インストールディレクトリ >¥PBA¥Data に置かれます。このファイルには、Continuous オペレーションを指定した時点で対象となっている全ファイルのリストが含まれます。ファイルに Continuous オペレーションが適用されると、そのファイルは自動的にリストへ追加されます。ファイルへの Continuous オペレーションを解除すると、そのファイルはリストから削除されます。



メモ Backup Agent ファイルは、Pervasive PSQI の Program Files ディレクトリではなく、アプリケーションディレクトリにインストールされます。Pervasive PSQI のインストール場所については、『Getting Started with Pervasive PSQI』を参照してください。

除外対象ファイル リスト

除外対象ファイル リスト (ef1.txt) は、<Pervasive PSQI インストールディレクトリ >¥PBA¥Data に置かれます。この除外対象ファイル リストにファイルを記載すれば、Backup Agent ではそれらのファイルを Continuous オペレーションの適用対象から除外することができます。

イベント ハンドラ

イベント ハンドラは Pervasive Backup Agent 内部で動作します。このコンポーネントの主な目的は、ファイルに対し Continuous オペレーションを適用できるようにするために、それらのファイルが開かれるのを防ぐことにあります。Backup Agent では MicroKernel のフック処理インターフェイスを使用してこのコントローラと連動させ、すべてのオペレーションまたは Backup Agent インターフェイスから要求されるイベントを処理します。この名前が示すとおり、イベント ハンドラは Backup Agent 内で行われるすべてのイベントを処理します。

ログ ファイル

Pervasive Backup Agent はイベント ハンドラからの情報や警告メッセージを報告するログ ファイル (baevent.log) を保持します。このログ ファイルは <Pervasive PSQI インストールディレクトリ >¥PBA¥Logs にあります。このロケーションは変更できません。

ログ ファイルの最大サイズは 50 MB に設定されていて、変更することはできません。ログファイルが最大サイズに達した場合、アーカイブのため、名前付け規則を使用して `baevent.1`、`baevent.2` など、ファイルの名前を自動的に変更します。Backup Agent は最大 5 つのアーカイブ ログ ファイルを保持します。

ソフトウェア開発キット (SDK)

Windows 環境の Pervasive Backup Agent にはアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) が含まれており、これを使えば開発者はソフトウェア アプリケーションに直接 Backup Agent を組み込むことができます。この API を必要なヘッダー ファイルやライブラリ ファイルと一緒に使用して、このタイプの実装に対し SDK 開発者が必要とするものを構築します。SDK を使用してアプリケーションに Backup Agent を直接組み込めば、最高レベルのバックアップ データが保証されます。

Backup Agent ライセンス

Pervasive Backup Agent は 1 台のマシンにのみインストール可能です。ライセンスがない場合は、評価版として Pervasive Backup Agent をインストールすることができます。評価版の有効期限を過ぎると、Backup Agent の起動時にエラーメッセージが表示されます。

最初に評価版としてインストールした場合でも、後でライセンスを適用することができます。License Administrator ユーティリティを使用して有効なライセンス番号を登録すると評価版から製品版ライセンスに置き換わります。

Windows License Administrator の使用に関する詳細については、License Administrator のオンライン ヘルプ、または『Pervasive PSQL User's Guide』を参照してください。

Pervasive Backup Agent のインストール

2

Pervasive Backup Agent のインストール方法

この章では、Pervasive Backup Agent をインストールする手順について説明します。この章では、以下の項目について説明します。

- 「Backup Agent インストールの概要」 (2-2 ページ)
- 「Backup Agent インストール チェックリスト」 (2-3 ページ)
- 「事前の確認」 (2-5 ページ)
- 「Pervasive Backup Agent のインストール」 (2-6 ページ)
- 「Backup Agent のインストール後の操作に関する一般的な質問」 (2-9 ページ)
- 「アプリケーションの一部としての Backup Agent のインストール」 (2-11 ページ)
- 「Pervasive Backup Agent のアンインストール」 (2-12 ページ)

Backup Agent インストールの概要

このセクションでは、Backup Agent をインストールするためのシステム要件、お使いの Windows マシンにインストールする場合の手順の概要、およびインストール時に組み込まれるファイルに関する情報を提供します。

Backup Agent のインストール場所

Pervasive Backup Agent は、Pervasive PSQL のサーバーまたはワークグループ エンジンが実装されている同じコンピュータにインストールする必要があります。Backup Agent は、そのインストール過程で Pervasive PSQL エンジンのロケーションを検出し、Pervasive Backup Agent のインストール先を自動的に決定します。このロケーションを変更することはできません。



メモ Pervasive PSQL v10 リリースでは、Microsoft が Vista オペレーティング システム向けに定めた新しいガイドラインに従うため、インストール ディレクトリが変更されました。インストール ディレクトリの場所については、『Getting Started with Pervasive PSQL』を参照してください。

Backup Agent インストール チェックリスト

このセクションでは、インストールの前に確認しておくチェックリストやその他の情報を提供します。

事前の注意

Pervasive Backup Agent をインストールする前の重要な確認事項を以下に述べます。

- システムのハードウェアとソフトウェアが Pervasive Backup Agent をインストールする要件を満たしている。



メモ Pervasive Backup Agent をインストールするためには、システムが Pervasive PSQL v10 SP1 のインストール要件を満たしている必要があります。ハードウェアおよびソフトウェア要件は、Pervasive Software の Web サイトに記載されています。

- ほかのソフトウェアアプリケーションの場合と同様に、インストールを開始する前に必ずハード ドライブ上の重要なファイルをバックアップしておいてください。
- Pervasive Control Center (PCC) を実行している場合は、インストールする前に終了しておく必要があります。PCC を終了してインストールすると、PCC の [ツール] メニューに Backup Agent をアドインすることができます。
- アーカイブ ログイングを既に有効にしている場合は、Pervasive Backup Agent を使用する前に無効にしておく必要があります。
- Pervasive Backup Agent のインストール中に、Pervasive PSQL データベース エンジン は自動的に停止 / 再起動されます。業務上、一定時間はデータベース エンジンを停止できないような環境である場合は、停止が許可される時間内に Backup Agent をインストールしてください。

Backup Agent Pervasive PSQL エンジン要件

Pervasive Backup Agent 2.0 は以下の Pervasive PSQL リリースでサポートされます。Pervasive PSQL の以下のリリースより前のバージョンではサポートされません。

- Pervasive PSQL v10 SP1 Server (32 ビット)

Pervasive Backup Agent のインストール

- Pervasive PSQL v10 SP1 Server (64 ビット)
- Pervasive PSQL v10 SP1 Workgroup

Backup Agent Readme ファイル

Pervasive Software は、Readme ファイルに含まれる情報をお読みいただくことを強くお勧めします。このファイルには、本製品のマニュアルには記載されていない重要な情報が含まれています。この情報は製品のインストールや使用の際に非常に役立ちます。

Readme ファイルはインストール CD のルート ディレクトリにあります。

事前の確認

このセクションでは、Windows 上で Pervasive Backup Agent を正しくインストールするために必要な情報について説明します。Backup Agent をインストールする前に、以下の情報を確認してください。

- 「Backup Agent インストールの概要」(2-2 ページ)。この章では、システム要件やインストール処理に関するプラットフォーム固有の注意が記述されています。
- **Readme** ファイル。このファイルには、製品のマニュアルには記載することができなかった最新の情報が含まれています。このファイルは配布メディアに収録されています。

Windows プラットフォームに関する注記

以下の条件に注意してください。

- Pervasive Backup Agent をインストールしようとするマシンにおいて管理者レベルの権限をすべて持っている必要があります。
- アドバンスド パワー マネージメント (APM) で電源管理を行っている場合、Pervasive Backup Agent のインストール時にはこれを無効にしてください。インストール中にサーバーがサスペンド状態になった場合、この電源管理機能が原因でインストールが失敗することがあります。アドバンスド パワー マネージメント (APM) 機能は、コントロールパネルの [電源オプション] で制御できます。
- Pervasive Backup Agent のインストールのために、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしたり、あるいはその設定を変更したりしておく必要があるかもしれません。

Pervasive Backup Agent のインストール

Pervasive Backup Agent は Pervasive PSQL サーバー エンジンまたはワークグループ エンジンが必要とします。Backup Agent をインストールしようとするマシンに、このサーバーまたはワークグループ データベース エンジンがインストールされていることを確認してください。

マシンに Pervasive PSQL サーバーまたはワークグループ データベース エンジンがない場合は、製品 CD メディアから Pervasive PSQL 製品をインストールしてください。

Pervasive PSQL のインストール手順については、Pervasive PSQL データベース エンジン製品のユーザー マニュアルを参照してください。

➤Pervasive Backup Agent をインストールするには

- 1 Windows コンピュータからインストール プログラムを実行します。
 - a. CD-ROM ドライブに本製品 CD を挿入します。
 - b. インストールプログラムが自動的に起動しない場合は、Windows のデスクトップから [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択して、「*drive:¥setup*」と入力します。
"drive" には、お使いの CD-ROM デバイスのドライブ文字を指定してください。

InstallShield ウィザードではシステムをチェックしてそのマシンに Backup Agent をインストールする準備を整えます。

InstallShield ウィザードによるシステムのチェックと検証が完了すると、初期画面が表示されます。

- 2 [次へ] ボタンをクリックしてインストール処理を開始します。
使用許諾契約書のダイアログが表示されます。
- 3 ライセンス契約書に同意し、[次へ] をクリックします。
Pervasive Backup Agent のライセンス番号を指定するダイアログが表示されます。
- 4 [ライセンス] フィールドに Backup Agent のライセンス キーを入力してください。



ヒント ライセンス番号を入力しないと、評価版としてインストールされます。

ライセンス キーは、CD-ROM に貼られている製品情報ラベルをご確認ください。



注意 評価版としてインストールした場合は、試用期間を過ぎてからプログラムを起動しようとするとき Backup Agent がエラー メッセージを返します。

評価版としてインストールしてから、後で License Administrator ユーティリティを使用してライセンス キーを適用することもできます。License Administrator ユーティリティの使用に関する詳細については、『Pervasive PSQL User's Guide』を参照してください。

- 5 [次へ] をクリックします。
インストール プログラムを開始する準備ができたことを示すダイアログが表示されます。
- 6 [インストール] をクリックしてインストールを進めます (使用許諾契約書の画面に戻る場合は [戻る] をクリックします)。
- 7 インストール処理が続行され、行っている作業を通知する一連のステータス メッセージが表示されます。ほとんどのメッセージ ダイアログで進行状況を示すプログレス バーが表示されます。
インストールの最後で、インストールの完了を通知するダイアログが表示されます。
- 8 [完了] をクリックします。

Backup Agent Readme ファイルの表示

Pervasive Software では Readme ファイルの内容を読んでいただくことを強くお勧めします。このファイルには、製品マニュアルには含まれていない、本製品の設定や使用の上で必要となる可能性がある重要な情報が記載されています。

Readme ファイルは、本製品をインストールすると <Pervasive PSQL インストール ディレクトリ>\PBA\Docs ディレクトリに格納され、いつでも参照することができます。[スタート] メニューの Pervasive グループからアクセスすることもできます。



メモ PBA ディレクトリは Pervasive PSQL サーバー エンジンをインストールしたアプリケーション データ ディレクトリ内に作成されます。

Backup Agent のインストール後に行うこと

Pervasive Backup Agent が正しくインストールされたら、エージェントを使って Pervasive PSQL のライブ バックアップを管理する準備が整います。次の章「Pervasive Backup Agent の使用」では、グラフィカルユーザー インターフェイスおよびコマンドライン インターフェイスの使用について説明します。

Backup Agent のインストール後の操作に関する一般的な質問

このセクションでは、Backup Agent インストールプログラム実行後の操作に関する情報を述べます。

Backup Agent 用に Pervasive Control Center (PCC) で何か設定する必要がありますか？

ありません。Pervasive Backup Agent のために PCC で特別何かを設定する必要はありませんが、Backup Agent をインストール（あるいはアンインストール）する場合は PCC を必ず閉じておくようにしてください。

Backup Agent ではログ ファイルを作成しますか？

はい。「ログ ファイル」(1-4 ページ) を参照してください。

どのようにして Backup Agent をバックアップ ソフトウェアに組み込めばよいですか？

Backup Agent を、お使いのバックアップ ソフトウェアに組み込んで動作させる方法については、「お使いのバックアップ ソフトウェアへの組み込み」(3-12 ページ) およびバックアップ ソフトウェアのユーザー マニュアルを参照してください。

Pervasive PSQL エンジンアンインストールしてから再度インストールしました。Backup Agent が動作しなくなったのはなぜでしょうか？

このような状況では、Backup Agent を再インストールする必要があります。この問題は現在の Pervasive PSQL エンジンの仕様で制限があるためです。これについては将来のリリースで取り組む予定です。

Pervasive Backup Agent ファイルはどこにインストールされますか？

Pervasive Backup Agent を使用するには、Pervasive PSQL サーバーまたはワークグループ データベース エンジンがインストールされていることが必要です。Backup Agent は Pervasive PSQL インストール ディレクトリの PBA サブディレクトリにインストールされます。Backup Agent ファイルが

Pervasive Backup Agent のインストール

インストールされるディレクトリは、インストールするプラットフォームによって異なります。

Windows でのデフォルトのインストール場所の一覧は、『Getting Started with Pervasive PSQL』を参照してください。

アプリケーションの一部としての Backup Agent のインストール

本ガイドでは、Backup Agent を CD から対話形式でインストールする方法を説明します。また、Backup Agent を、開発したアプリケーションのインストール処理に組み込んでインストールすることもできます。Backup Agent のインストールは非対話形式で実行することもできます。この場合、ユーザーによる入力はありません。これをサイレント インストールと呼びます。

Backup Agent のサイレント インストールの実行方法

以下の手順では、Backup Agent のサイレント インストールの実行方法を説明します。この手順は Backup Agent のインストールでのみ適用されることに注意が必要です。

サイレント インストールを開始する前に、PCC など、Pervasive PSQL のすべてのユーティリティおよび Pervasive PSQL を使用するすべてのアプリケーションが終了していることを確認してください。

➤ Backup Agent をサイレント インストールするには

- 1 すべてのファイルを Pervasive Backup Agent の CD からハード ディスクの一時ディレクトリにコピーします。

Backup Agent がインストールされていないマシンを使用します。

- 2 コマンド プロンプト ウィンドウを開き、プログラム ファイルをコピーしたディレクトリの場所へ移動します。
- 3 サーバーのライセンス番号を使用して Backup Agent のセットアップ コマンドを実行します。次のようなコマンドを入力します。

```
setup /s /v "SERVERLICENSE=key" /v" /qn"
```

ここで、*key* は Pervasive Backup Agent のライセンス番号です。

ライセンス キーは、CD-ROM に貼られている製品情報ラベルをご確認ください。

サイレント インストールはユーザーとの対話形式ではないので、インストールが正常終了したことを通知するメッセージは表示されません。しかし、インストールが完了すると、Backup Agent が Pervasive PSQL のプログラム グループに自動的にインストールされていることがわかります。

Pervasive Backup Agent のアンインストール

アンインストール プログラムではシステムからすべての Backup Agent コンポーネントを削除します。



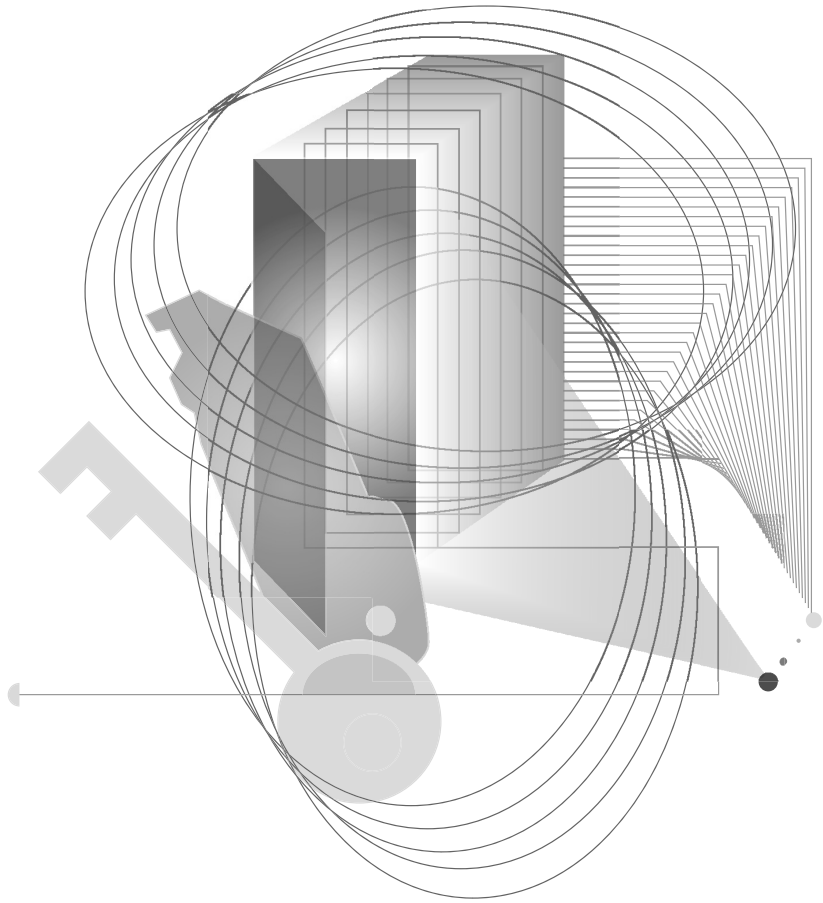
注意 Pervasive Control Center (PCC) を実行している場合は、アンインストールする前に終了しておく必要があります。PCC を終了してアンインストールすると、PCC の [ツール] メニューから Backup Agent 関連コマンドを削除することができます。

➤Pervasive Backup Agent をアンインストールするには

- 1 Windows オペレーティング システムでコントロール パネルから [アプリケーションの追加と削除] または [プログラムの追加と削除] にアクセスします。
- 2 リストから "Pervasive Backup Agent" をクリックします。
- 3 削除用のボタンをクリックしてプログラムを削除します。このボタンは OS によって [変更と削除] または [削除] というラベルが付けられています。Pervasive Backup Agent の削除を確認するメッセージが表示されます。
- 4 Backup Agent の削除の確認で [はい] をクリックします。

アンインストールの処理状況を示すダイアログ ボックスが表示されます。

アンインストールが完了すると、[アプリケーションの追加と削除] または [プログラムの追加と削除] の画面に戻ります。



USER'S GUIDE

Pervasive Backup Agent の使用

3

Pervasive Backup Agent 使用方法のリファレンス

- 「Continuous オペレーションの概要」 (3-2 ページ)
- 「Backup Agent 使用前の注意」 (3-4 ページ)
- 「ファイルを Continuous オペレーションの対象外に設定する」 (3-9 ページ)
- 「Backup Agent コマンド ライン インターフェイスの用法」 (3-11 ページ)
- 「Backup Agent グラフィカル ユーザー インターフェイスの用法」 (3-14 ページ)

Continuous オペレーションの概要

Continuous オペレーションは Pervasive PSQL に含まれる MicroKernel の機能です。ファイルをテンポラリ状態にして、データベース ファイルが開いていて使用中でもデータ ファイルのバックアップができるようにする機能を提供します。

バックアップ中にデータ ファイルを開く行為は、それらのデータ ファイルが既に開かれていて使用中であるため、一般的に拒否されます。Continuous オペレーションを有効にすると、選択したファイルを読み取り専用で開くために MicroKernel への呼び出しを行います。これにより、バックアップユーティリティでは選択したファイルの静的イメージにアクセスしてバックアップを行うことができます。データ ファイルが読み取り専用で開かれると、MicroKernel はそのファイルに対して行われた変更をテンポラリ デルタ ファイルに記録します。これらのテンポラリ デルタ ファイルは、実行中のファイル内容を保持していて、バックアップ処理中に発生した変更を完全に反映します。

バックアップが完了した後、データ ファイルへの Continuous オペレーション モードを無効にする必要があり、その時点のデルタ ファイルに保存された変更がデータ ファイルにロール インされます。MicroKernel は、すべての変更をデータ ファイルにロール インすると直ちにデルタ ファイルを削除します。

Continuous オペレーションの開始

Continuous オペレーション モードの開始は、アクセス中のファイルのタイプによって、Pervasive PSQL の BUTIL または Maintenance ユーティリティを使用して操作します。Maintenance ユーティリティは BUTIL の対話型バージョンで、ファイル パスを要求します。

Continuous オペレーションの終了

Continuous オペレーション モードの終了も、アクセス中のファイルのタイプによって、Pervasive PSQL の BUTIL または Maintenance ユーティリティを使用して操作します。Continuous オペレーションの起動時に使用したユーティリティと同じユーティリティを使用して Continuous オペレーションを終了します。

『Pervasive PSQL Advanced Operations Guide』には、Pervasive PSQL で提供される Continuous オペレーションについての詳細な情報が記載されています。

Backup Agent を使用する理由

Pervasive PSQL データベースをバックアップするための Continuous オペレーションを開始および終了するユーティリティが既にあっても Backup Agent を使用するのにはなぜでしょうか。それは、Backup Agent が Continuous オペレーションに対しもう 1 つの手順を追加しているからです。Backup Agent では、「インテリジェント Continuous オペレーション管理」という機能を実装しています。

この「インテリジェント Continuous オペレーション管理」では、エージェントによって自動的にファイルが Continuous オペレーション モードになります。システム管理者がバックアップするファイルのリストを提供し管理する必要はありません。このファイル管理により、Continuous オペレーションを適用する必要のないファイルを含む `butil -startbu` スクリプトの必要性がなくなります。また、バックアップ セッション中にユーザーによって開かれていないファイルについては Continuous オペレーションに入れないようにします。Backup Agent は 実際にはアクセスされていて Continuous オペレーションに入れる必要のあるファイルのみを扱います。これによって、増加または差異のバックアップ処理中にバックアップされるデータ量を大幅に減少させることができます。

Backup Agent を使用するもう 1 つの主な理由は、市販されているほぼすべての一般的なバックアップ ソフトウェア製品へ簡単に組み込めることです。

次のセクションでは、データ バックアップを取り巻く問題および Backup Agent を使用する場合にあらかじめ知っておくべき注意について説明します。

Backup Agent 使用前の注意

このセクションでは、Pervasive Backup Agent を使用する前に知っておく必要がある注意や考慮点を挙げます。

アーカイブ ロギング

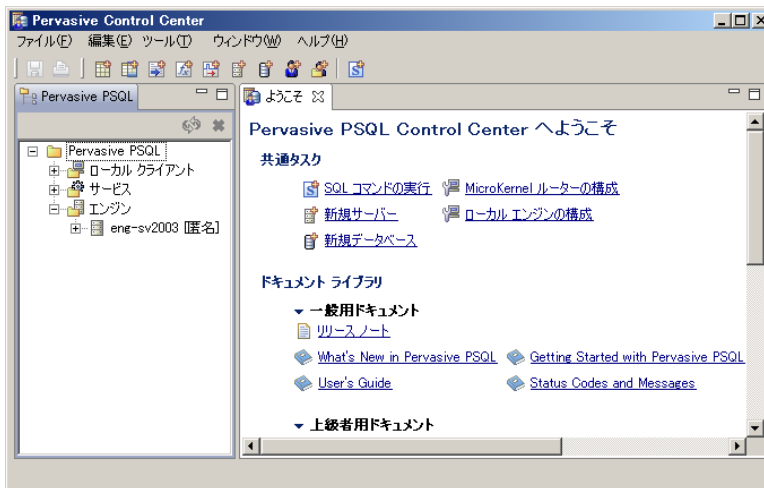
Pervasive PSQL でアーカイブ ロギングを既に有効にしている場合、Pervasive Backup Agent を使用する前に無効にする必要があります。アーカイブ ロギングが有効になっているかどうかはわからない場合は、Pervasive Control Center の設定によって調べることができます。

➤ アーカイブ ロギングが無効であることを調べるには

- 1 [スタート] メニューから Pervasive PSQL のプログラム グループにアクセスし、[Control Center および ドキュメント] を選択します。

Pervasive Control Center が表示されます。

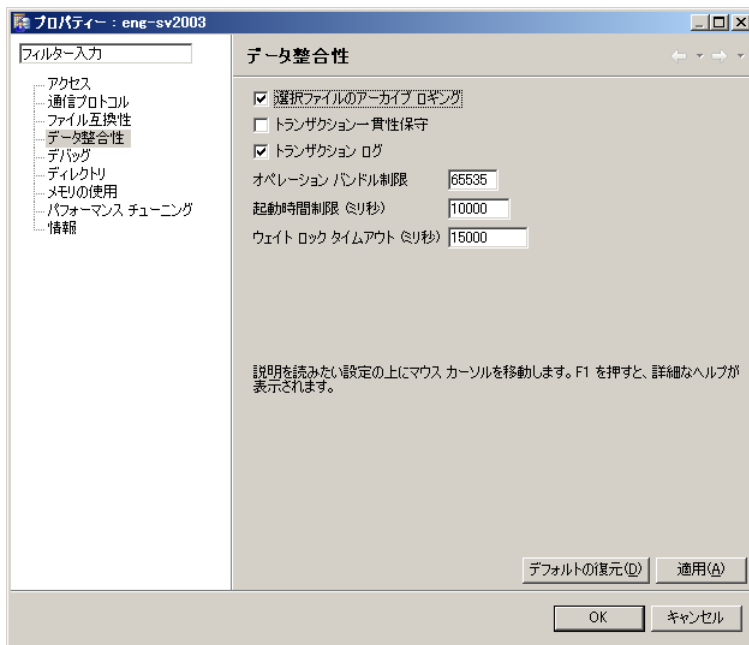
図 3-1 PCC の初期画面



- 2 初期画面で [ローカル エンジンの構成] をクリックします。

[プロパティ] ダイアログが表示されます。

図 3-2 PCC でのアーカイブ ログिंगの設定



- 3 [データ整合性] をクリックします。
ダイアログの右側のペインにデータ整合性の設定が表示されます。
デフォルトで、[選択ファイルのアーカイブ ログング] オプションは選択されていません。
- 4 アーカイブ ログングを無効にするには、[選択ファイルのアーカイブ ログング] オプションをクリアして [適用] をクリック後、[OK] をクリックします。



注意 設定の変更は、Pervasive PSQL サーバー エンジンが再起動されるまでは適用されません。

テンポラリ ファイル

MicroKernel はテンポラリ ファイルをロックします。その結果、Backup Agent はテンポラリ ファイルに対し Continuous オペレーションを適用することはできません。



メモ テンポラリ ファイルに対して **Continuous** オペレーションを適用しようとする、ステータス コード 85 の「ファイルはロックされています。」というエラーになります。

読み取り専用ディレクトリのファイル

ファイルが読み取り専用ディレクトリにあるという状況では、**MicroKernel** はデルタ ファイルを作成することができず、**Backup Agent** はファイルを **Continuous** オペレーションに入れることができません。



メモ 読み取り専用ディレクトリにあるファイルに対して **Continuous** オペレーションを適用しようとする、ステータス コード 94 の「アプリケーションでパーミッション エラーが発生しました」というメッセージが表示されます。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルには書き込み操作でアクセスすることはできませんが、**Backup Agent** はこれらのファイルに対し **Continuous** オペレーションを適用することができます。読み取り専用ファイルには更新処理は行われないので、**MicroKernel** はデルタ ファイルを作成しません。**MicroKernel** はすべての書き込み操作の試みを無視します。デルタ ファイルが作成されないため、**Backup Agent** が管理するものは何も残されません。

Backup Agent のリモート操作

業務上、**Pervasive Backup Agent** をリモート マシンから開始および停止するよう指示されている場合は、市販の一般的なリモート アクセス アプリケーションを使用してこれを行うことができます。たとえば、**Telnet** セッションを使用して **Backup Agent** を起動します。

その他のユーティリティの使用

BUTIL または **Maintenance** ユーティリティを使用して **Continuous** オペレーションを開始することは、お勧めできません。ファイルが別のユーティリティで **Continuous** オペレーション モードになっている場合、**Backup Agent** はこれを管理することができません。ファイルに **Continuous** オペレーションを適用したユーティリティと必ず同じユーティリティを使用して **Continuous** オペレーションを解除してください。

パフォーマンスの問題

潜在的なパフォーマンスの低下を避けるため、バックアップ処理は常に時間外やデータ アクセスの少ない時間帯にスケジュールするようにしてください。また、バックアップが完了したらエージェントを確実に停止することが重要です。Backup Agent を実行する際には、以下の状況がデータベースアプリケーションのパフォーマンスに影響を与えます。

- デルタ ファイルのサイズが 2 GB を超えると、データベースの読み書きが遅くなり潜在的なパフォーマンスの問題が発生します。これは、データ アクセスが多いときに起こるので、バックアップを就業時間外やデータ アクセスの少ない時間に行うことによって回避できます。



メモ デルタ ファイルが 4 GB の最大サイズ制限まで大きくなると、ステータス コード 132「ファイルがサイズの制限に達しました。」が返されます。

- Backup Agent を有効にすると、すべての保留中のトランザクションの終了（コミット / ロールバック）をブロックするのでパフォーマンスに影響を与えます。影響の度合いはそのトランザクションに関わるファイル数によって異なります。
- Backup Agent を無効にすると、データ ファイル内に記録された変更がデータベース ファイルにロール インされる必要があります。この処理がパフォーマンスに与える影響は、発生した変更の量に応じた処理時間によって異なります。



注意 バックアップ終了後に Backup Agent を有効なままにしておくと、大きなデルタ ファイルが作成されてパフォーマンスを低下させるだけでなく、データの整合性を危うくします。

リカバリ スタートアップ タイムアウト

Backup Agent を使用して Continuous オペレーションを適用したファイルがあり、サーバーが再起動された場合、変更をロール インする時間には 30 分の制限があります。タイムアウトの 30 分に到達すると、Pervasive Backup Agent はタイムアウトに達したファイルをログに記録します。元のファイルに対してデータベース変更が行われた場合、まだアクティブになっているデルタ ファイルのサイズは増加し続けます。デルタ ファイルのサイズは、変更が元のファイルにロール インされるまで増加し続けます。この状況を排除するには、元のファイルを Function Executor または Pervasive Control Center を使って開き、デルタ ファイルをロール インします。



メモ ファイルのロール イン中にタイムアウトに達した場合、その時点までの変更はすべて失われず保持されます。まだロール インされていない変更は、次回ファイルが開かれたときにロール インされます。

システム障害

バックアップに Pervasive Backup Agent を使用してハード ドライブ障害が起こった場合は、アーカイブ ログおよび Maintenance ユーティリティのロール フォワード コマンドを使用しても最終バックアップ後に起こったデータ ファイルへの変更を復元することはできません。ハード ドライブ障害が起こった場合は、最終バックアップ以降のすべての変更は失われます。

Backup Agent によってファイルが Continuous オペレーション モードにある間にサーバーが停止した場合、Backup Agent は存在するデルタ ファイルを検出し、次回サーバーが再起動されたときに変更をロール インします。

ファイルを Continuous オペレーションの対象外に設定する

Backup Agent により、1 つまたは複数のファイルやファイル タイプを Continuous オペレーションの対象外に設定することができます。ファイルやファイル タイプをセミコロン区切り形式で除外対象ファイル リスト (efl.txt) に表示します。ファイルの除外にワイルドカードを使用することもできます。

BUTIL または Maintenance ユーティリティを使用して、ファイルに Continuous オペレーションを適用した場合は、efl.txt には表示されませんが、ファイルは除外されません。



メモ Backup Agent が実行中の場合、除外対象ファイル リストを変更することはできません。また、除外対象ファイル リストへの変更は、Backup Agent を再起動した後はじめて有効になります。

Backup Agent のインストールが正常に完了すると、efl.txt ファイルは以下の場所に配置されます。

- <Pervasive PSQL インストール ディレクトリ >%PBA%Data (Windows)



メモ Backup Agent ファイルは、Pervasive PSQL の Program Files ディレクトリではなく、アプリケーション ディレクトリにインストールされます。Pervasive PSQL のインストール場所については、『Getting Started with Pervasive PSQL』を参照してください。

➤ Continuous オペレーション以外にファイルを配置するには

- 1 以下の場所へ移動します。
 - <Pervasive PSQL インストール ディレクトリ >%PBA%Data
- 2 efl.txt ファイルを開きます。
- 3 ファイル名またはファイル タイプをセミコロン区切りで同じ行に併記するように入力するか、行を区切って入力します。

以下は除外対象ファイル リストのエントリの例です。

samples%f???.ddf; (samples ディレクトリにある、ファイル名が f で始まる 4 文字で、DDF 拡張子をもつすべてのファイルを除外)

Pervasive Backup Agent の使用

C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Pervasive Software\PSQL\demodata\bill*. *
(demodata ディレクトリにある名前が bill で始まるすべてのファイルを除外)

- 4 efl.txt ファイルへの変更を保存して、ファイルを閉じます。
- 5 Backup Agent を再起動します。
- 6 Backup Agent が実行中に、除外対象ファイルにあるいずれかのファイルを開きます。

ファイルが開いても、そのファイルは除外対象ファイルリストにあるので、Continuous オペレーションには適用されません。

- 7 ログ ファイルを確認します。

除外したことを示す次のメッセージが表示されます。

Backup Agent は次のファイルを除外しました

<ファイル名 >

Backup Agent コマンド ライン インターフェイスの使用法

Backup Agent コマンドライン インターフェイス (CLI) ユーティリティ (pvbackup.exe) は、Continuous オペレーション機能をお使いのバックアップ ソフトウェア アプリケーションに自動的に組み込む完璧なソリューションです。このユーティリティをバックアップ ソフトウェア アプリケーションと共に実装する方法を説明する前に、このユーティリティ自体の使用法を見てみましょう。

Backup Agent (CLI) を有効にする

➤ Backup Agent CLI を有効にするには

- 1 コマンド プロンプトで、以下のコマンドのいずれかをタイプして Enter キーを押します。

```
pvbackup -on (32 ビット)
```

```
pvbackup64 -on (64 ビット)
```

次のようなメッセージが表示され、エージェントの有効化に成功したことを示します。

Backup Agent は現在オンになっています。

Backup Agent (CLI) を無効にする

➤ Backup Agent CLI を無効にするには

- 1 コマンド プロンプトで、以下のコマンドのいずれかをタイプして Enter キーを押します。

```
pvbackup -off (32 ビット)
```

```
pvbackup64 -off (64 ビット)
```

次のようなメッセージが表示され、エージェントの無効化に成功したことを示します。

Backup Agent は現在オフになっています。

Backup Agent (CLI) ステータスの要求

➤ Backup Agent CLI の現在の状態を要求するには

- 1 コマンド プロンプトで、以下のコマンドのいずれかをタイプして Enter キーを押します。

```
pvbackup -status (32 ビット)
```

Pervasive Backup Agent の使用

```
pvbackup64 -status (64 ビット)
```

次のようなメッセージが表示され、エージェントの状態を示します。

Backup Agent は現在オンになっています。

Backup Agent (CLI) ヘルプの表示

➤ Backup Agent CLI のヘルプを表示するには

- 1 コマンド プロンプトで、以下のコマンドのいずれかをタイプして Enter キーを押します。

```
pvbackup -? (32 ビット)
```

```
pvbackup -h (32 ビット)
```

```
pvbackup64 -? (64 ビット)
```

```
pvbackup64 -h (64 ビット)
```

コマンドライン ユーティリティの使用法のヘルプが表示されます。

```
使用法:      pvbackup  [-on | -off | -status]
             pvbackup64
```

```
オプション:  -on          Backup Agent をオンにします。
```

```
            -off        Backup Agent をオフにします。
```

```
            -status     Backup Agent の現在の状態を表示します。
                        (ON、OFF、ON-WITH-ERROR、BUSY)
```

```
            -?|-h      このヘルプ画面を表示します。
```

お使いのバックアップ ソフトウェアへの組み込み

Pervasive Backup Agent は、現在市場で数多く販売されている一般的なバックアップ ソフトウェアに簡単に組み込むことができます。バックアップ アプリケーションによっては、バックアップをスケジュールする前に特定の操作またはスクリプトを実行するように設定できるものがあります。この機能により、バックアップ完了後に特定の操作やスクリプトを実行するような設定をソフトウェアに組み込む柔軟性も得られます。

たとえば、バックアップ アプリケーションによっては事前または事後のコマンドを設定できるものがあります。したがって、事前コマンドを設定する場合、お使いのバックアップ ソフトウェア固有の要件に応じて、以下のコマンドに似たものを入力することができます。

<ドライブ>:¥<データのフルパス>¥pvbackup -on

また、事後コマンドを指定してバックアップ完了後に実行することもできます。これはお使いのバックアップソフトウェアの要件に応じて、以下のコマンドに似たものになります。

<ドライブ>:¥<データのフルパス>¥pvbackup -off

お使いのバックアップソフトウェアによって、フルパス名を入力する必要がない場合もあります。お使いのバックアップソフトウェア固有の要件については、付属のユーザー マニュアルやオンライン ヘルプを参照してください。

Backup Agent グラフィカル ユーザー インターフェイスの使用法

Backup Agent のグラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) ユーティリティ (pvbackupgui.exe) は、バックアップ ファイルを管理するための簡単なソリューションです。このユーティリティは使用が簡単なインターフェイスであるため、臨時のバックアップ処理を行う際にはすぐに利用できます。

Backup Agent (GUI) ユーティリティの開始

Backup Agent GUI には、[スタート] メニューから、あるいは PCC (Pervasive Control Center) からアクセスします。

➤ Backup Agent GUI を [スタート] メニューから開始するには

- 1 [スタート] メニューから Pervasive PSQL のプログラム グループにアクセスし、[Backup Agent] を選択します。

[Pervasive Backup Agent] ダイアログが表示されます。

図 3-3 Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ



Pervasive PSQL ファイルのライブ バックアップ管理については、「Backup Agent (GUI) を有効にする」(3-15 ページ)を参照してください。

➤ Pervasive Control Center から Backup Agent GUI を起動するには

- 1 Pervasive Control Center メニュー バーで、[ツール | Backup Agent] をクリックします。

図 3-4 Backup Agent を PCC から起動する



[Pervasive Backup Agent] ダイアログが表示されます。

図 3-5 Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ



Pervasive PSQL ファイルのライブ バックアップ管理については、次のセクション「Backup Agent (GUI) を有効にする」を参照してください。

Backup Agent (GUI) を有効にする

➤ Backup Agent GUI を有効にするには

- 1 Pervasive Backup Agent の初期ダイアログから、[開始] をクリックしてユーティリティを有効化し、Pervasive PSQL データベースのライブバックアップを開始および管理します。

Backup Agent を有効にすると、ユーティリティは以下の情報を表示します。

図 3-6 Pervasive Backup Agent の有効化



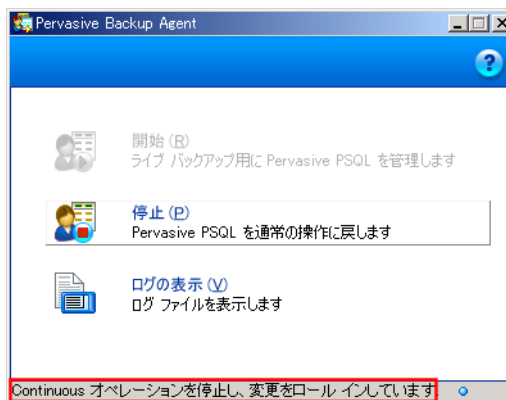
Backup Agent は有効で、Pervasive PSQL データベースのライブ バックアップを管理しています。

Backup Agent (GUI) を無効にする

➤ Backup Agent GUI を無効にするには

- 1 Pervasive Backup Agent が有効なダイアログ (図 3-6) で [停止] をクリックすると、ユーティリティを無効化し通常の操作に戻ります。
初めて [停止] をクリックすると、次のステータス メッセージが表示されます。

図 3-7 変更のロール イン ステータス メッセージ



- 2 Backup Agent を無効にすると、ユーティリティは最初の表示に戻ります。

図 3-8 Pervasive Backup Agent の初期ダイアログ



Backup Agent は無効で通常の操作に戻りました。

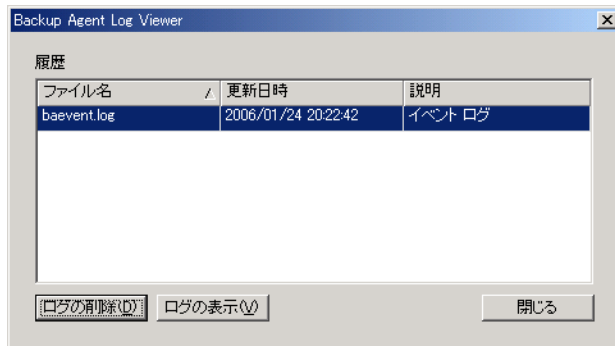
Backup Agent (GUI) ログ ファイルを表示する

➤ Backup Agent GUI ログ ファイルを表示するには

- 1 [ログの表示] をクリックして Backup Agent ログ ファイルを表示します。

[Backup Agent Log Viewer] ダイアログが表示されます。

図 3-9 Backup Agent Log Viewer



- 2 [閉じる] をクリックすると、[Backup Agent Log Viewer] ウィンドウを閉じます。

[ログの削除] をクリックすると、選択したログ ファイルを削除することができます。

[ログの表示] をクリックすると、指定したログファイルを表示することができます。

Backup Agent (GUI) オンライン ヘルプの表示

➤Backup Agent GUI のヘルプを表示するには

- 1 Backup Agent のダイアログで、ダイアログの右上隅にあるヘルプ ボタンをクリックします。



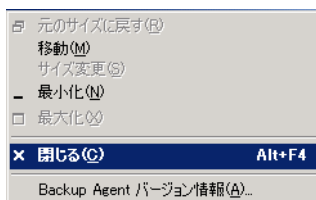
Pervasive Backup Agent のオンライン ヘルプ ファイルが表示されます。

Backup Agent (GUI) ユーティリティの終了

➤Backup Agent GUI ユーティリティを閉じるには

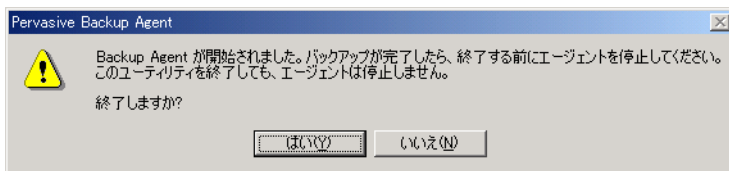
- 1 ダイアログの左上隅の Backup Agent プログラム アイコンをクリックします。

図 3-10 Backup Agent の終了



- 2 [閉じる] をクリックします。

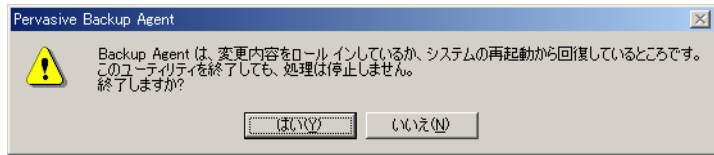
アクティブなバックアップ セッション中やエージェントを停止する前にユーティリティを終了しようとする、以下のメッセージが表示されます。



このメッセージはエージェントが現在オンであることを示しています。

システム再起動中または Backup Agent が変更をロール イン中にユーティリティを終了しようとする、以下のメッセージが表示されます。

図 3-11 変更のロール イン中に Backup Agent を終了する確認メッセージ



- ユーティリティを終了する場合は [はい] をクリックします。インターフェイスに戻ってエージェントを終了する場合は、[いいえ] をクリックします。



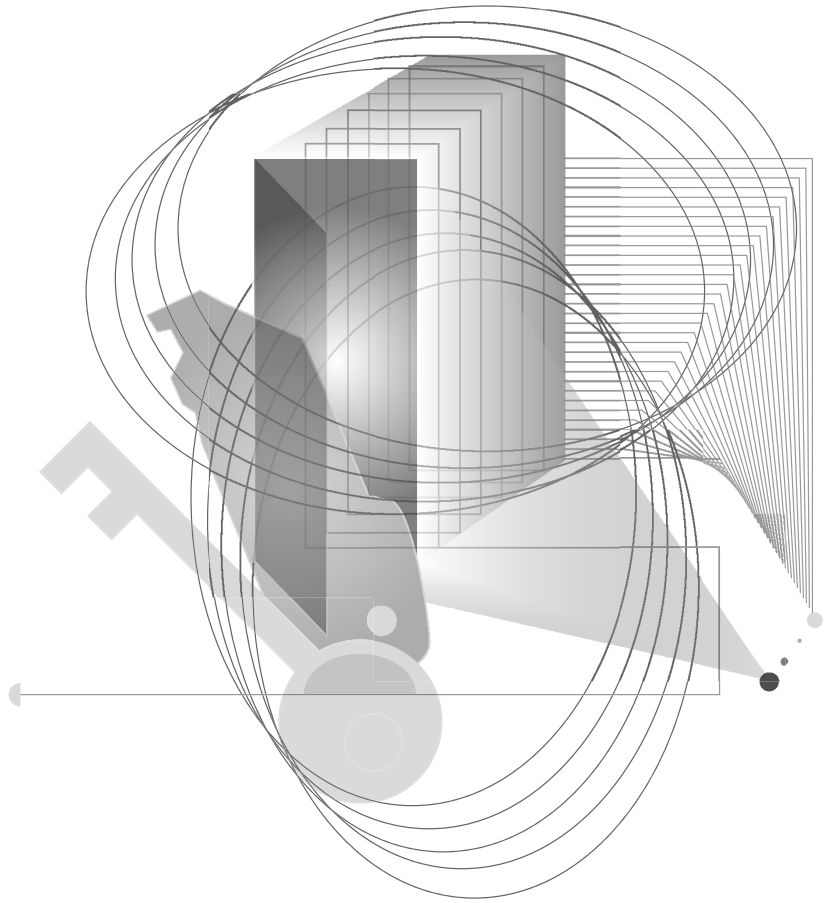
ヒント このユーティリティのインターフェイスを閉じてもエージェントは停止されません。

エージェントを停止しないでこのインターフェイスを閉じた場合、誤ってエージェントをオンの状態のままにしておくことになり、その結果非常に大きなサイズのデルタ ファイルが作成され、現在のバックアップの整合性が保証されなくなる可能性があります。

現在、デルタ ファイルの最大サイズは 4 GB ですが、デルタ ファイルのサイズが 2 GB 以上になると著しいパフォーマンス低下が起こるかもしれません。デルタ ファイルのサイズが最大限の 4 GB に達すると、ステータス コード 132「ファイルがサイズの制限に達しました。」が返されます。



注意 バックアップ処理が完了したらエージェントを停止してください。エージェントを停止しないと非常に大きなデルタ ファイルが作成されシステムのパフォーマンスやデータ整合性に悪影響を与えます。



補足情報

プログラマーズ リファレンス

A

Pervasive Backup Agent API リファレンス

この付録では、Pervasive Backup Agent に含まれるアプリケーションプログラミング インターフェイス (API) を使用する開発者向けのリファレンス情報を提供します。この付録は、高度な概念や入門的な情報を提供するものではありません。

以下の機能が含まれます。

- 「PvBackupSetOn()」 (A-2 ページ)
- 「PvBackupSetOff()」 (A-3 ページ)
- 「PvBackupGetStatus()」 (A-4 ページ)
- 「PvBackupGetLogDir()」 (A-5 ページ)
- 「PvBackupGetLogDirW()」 (A-6 ページ)

PvBackupSetOn()

説明

Backup Agent をオンにします。

インクルード

pvbackupapi.h

ライブラリ

pvbackupapi.lib (Windows 32 ビット)
w64pvbackupapi.lib (Windows 64 ビット)

構文

```
BU_STAT PvBackupSetOn();
```

戻り値

BU_ON	Backup Agent は有効になりました (または、この関数が呼び出されたときに既に有効になっていました)。
BU_ERROR	Backup Agent は、エラーにより有効にできませんでした。PvBackupGetLogDir() を使用して、そのエラー情報を含むログファイルを見つけてください。
BU_BUSY	システムがクリーンアップまたはスタートアップ操作のためにビジー状態で、Backup Agent を有効にできませんでした。数秒後に再試行してください。
BU_ON_WITHERROR	Backup Agent は有効になりましたが、そのことによりいくつかのエラーが発生しました。
BU_INSTALL_ERROR	互換性のない MicroKernel またはインストールが不完全な Backup Agent が検出されました。Backup Agent イベントハンドラはインストールされず正しく登録されません。Backup Agent ソフトウェアを再インストールしてください。

PvBackupSetOff()

説明 Backup Agent をオフにします。

インクルード pvbackupapi.h

ライブラリ pvbackupapi.lib (Windows 32 ビット)
w64pvbackupapi.lib (Windows 64 ビット)

構文 BU_STAT PvBackupSetOff();

戻り値

BU_OFF	Backup Agent は無効になりました (または、この関数が呼び出されたときに既に無効になっていました)。
BU_ERROR	Backup Agent は、エラーにより無効にできませんでした。PvBackupGetLogDir() を使用して、そのエラー情報を含むログ ファイルを見つけてください。この関数の呼び出し前にエラーが発生していた場合はこの値は返されません。PvBackupGetStatus() を使用して情報を取得してください。
BU_BUSY	システムがクリーンアップまたはスタートアップ操作中のためにビジー状態で、Backup Agent を無効にできませんでした。数秒後に再試行してください。
BU_INSTALL_ERROR	互換性のない MicroKernel またはインストールが不完全な Backup Agent が検出されました。Backup Agent イベント ハンドラはインストールされず正しく登録されません。Backup Agent ソフトウェアを再インストールしてください。

PvBackupGetStatus()

説明 Backup Agent の現在の状態を取得します。

インクルード pvbackupapi.h

ライブラリ pvbackupapi.lib (Windows 32 ビット)
w64pvbackupapi.lib (Windows 64 ビット)

構文 BU_STAT PvBackupGetStatus ();

戻り値

BU_ON	Backup Agent は有効になりエラーは発生していません。
BU_OFF	Backup Agent が無効になりました。
BU_ERROR	Backup Agent は、エラーによりステータスを取得できません。PvBackupGetLogDir() を使用して、そのエラー情報を含むログ ファイルを見つけてください。
BU_ON_WITHERROR	Backup Agent は有効になりましたが、そのことによりいくつかのエラーが発生しました。
BU_BUSY	システムがクリーンアップまたはスタートアップ操作中のためにビジー状態で、Backup Agent はステータス取得リクエストを処理できません。数秒後に再試行してください。
BU_INSTALL_ERROR	互換性のない MicroKernel またはインストールが不完全な Backup Agent が検出されました。Backup Agent イベント ハンドラはインストールされず正しく登録されません。Backup Agent ソフトウェアを再インストールしてください。

PvBackupGetLogDir()

説明 Backup Agent ログ ファイルが書き出されたディレクトリを取得します。

インクルード pvbackupapi.h

ライブラリ pvbackupapi.lib (Windows 32 ビット)
w64pvbackupapi.lib (Windows 64 ビット)

構文

```
const char* const PvBackupGetLogDir();
```

戻り値

char*	システムのデフォルトの文字エンコーディングによる ANSI 文字列を含む静的バッファへのポインタです。失敗した場合や、LogsPath レジストリ キーが削除されているか空の場合は NULL を返します。 この文字列は、英語のみを使用するシステムでは ASCII として使用できます。
--------------	---

備考 これはシングル バイト文字セットです。

関連項目 「PvBackupGetLogDirW()」 (A-6 ページ)

PvBackupGetLogDirW()

説明	Backup Agent ログ ファイルが書き出されたディレクトリを取得します。		
インクルード	pvbackupapi.h		
ライブラリ	pvbackupapi.lib (Windows 32 ビット) w64pvbackupapi.lib (Windows 64 ビット)		
構文	<pre>const wchar_t* const PvBackupGetLogDirW();</pre>		
戻り値	<hr/> <table><tr><td>wchar_t*</td><td>ワイド キャラクタ文字列を含む静的文字列へのポインタです。失敗した場合や、LogsPath レジストリ キーが削除されているか空の場合は NULL を返します。</td></tr></table> <hr/>	wchar_t*	ワイド キャラクタ文字列を含む静的文字列へのポインタです。失敗した場合や、LogsPath レジストリ キーが削除されているか空の場合は NULL を返します。
wchar_t*	ワイド キャラクタ文字列を含む静的文字列へのポインタです。失敗した場合や、LogsPath レジストリ キーが削除されているか空の場合は NULL を返します。		
備考	これはダブル バイト文字セットです。		
関連項目	「PvBackupGetLogDir()」 (A-5 ページ)		

Pervasive Software のリソース および問い合わせ先



B

Pervasive Software カスタマ情報リソースのご案内

Pervasive Software では、弊社製品を円滑にご利用いただけるよう努めております。この付録では、Pervasive Software の大切なお客様として自由にご利用になれるリソースおよび情報について説明します。

- 「使用可能なリソース」(B-2 ページ)

使用可能なリソース

次の表では、ご質問への回答や問題のトラブルシューティング方法に関するリソースおよび問い合わせ先についての情報を提供しています。

表 2-1 Pervasive Software リソースおよび問い合わせ先情報

リソース	説明	問い合わせ先
Pervasive Software Web サイト	Pervasive Software の Web サイトでは、Pervasive PSQL に関するあらゆる情報を豊富に提供しています。	http://www.agtech.co.jp/products/pervasive/
Pervasive PSQL FAQ	Pervasive 製品に関してよくお問い合わせのある質問を提供しています。	http://www.agtech.co.jp/support/faq/pervasive/
Pervasive ライブラリ	技術白書などの資料をご覧になれます。	http://www.agtech.co.jp/support/reference/pervasive/
オンライン マニュアル	Pervasive PSQL 製品マニュアルの最新版をダウンロードできます。	http://www.agtech.co.jp/download/manual/
	オンライン ドキュメントの完全なセットは、インストール時に除外するよう指定しない限り自動的にインストールされます。	このマニュアルは [スタート] メニューからアクセスする [Pervasive] プログラム グループのサブメニューから、または インストール CD-ROM からアクセスすることができます。
電子メールによるお問い合わせ	Pervasive 製品に関する全般的なご質問。	info@agtech.co.jp
	Pervasive 製品のセールス情報についてのお問い合わせ。	sales@agtech.co.jp

索引

B

Backup Agent

- API リファレンス A-1
- Pervasive SQL エンジンのアンインストール 2-9
- Readme ファイル 2-4, 2-5
- Windows 上でインストールするための PCC の終了 2-3
- Windows 上でインストールするためのエンジンの停止と再起動 2-3
- Windows 上でインストールする場所... 2-2
- Windows 上でのアンインストール..... 2-12
- Windows 上でのサイレント インストール 2-11
- Windows 上の Readme ファイル 2-7
- インストール 2-1
 - Windows 上でインストールする前の確認事項 2-3
 - Windows の概要 2-2
 - Windows のチェックリスト 2-3
 - Windows プラットフォームに関する注記 2-5
 - アドバンスド パワー マネージメント (APM) の無効 2-5
 - 一般的な質問 2-9
 - ウイルス対策ソフトウェアの無効.. 2-5
 - 手順 2-6
 - ハードウェア要件 2-3
 - 必要なオペレーティング システムの権利 2-5
- インストールのためのファイルのバックアップ 2-3
- 概要 1-2
- コンポーネント 1-3
 - 一貫性保守可能なファイル リスト 1-4
 - イベント ハンドラ 1-4
 - グラフィカル ユーザー インターフェイス ユーティリティ 1-3
 - コマンドライン ユーティリティ 1-3
 - コントローラ 1-3
 - 除外対象ファイル リスト 1-4
 - ソフトウェア開発キット (SDK).... 1-5
 - ログ ファイル 1-4
 - 設定 2-9
 - バックアップ ソフトウェアへの組み込み 2-9
 - パフォーマンスの問題 3-7
 - プログラミング リファレンス A-1
 - 本製品の機能 1-2
 - ライセンス 1-6
 - ログ ファイル 1-4
- Backup Agent グラフィカル ユーザー インターフェイスの使用法 3-14
- Backup Agent コマンド ライン インターフェイスの使用法 3-11
- Backup Agent コンポーネント 1-3
- Backup Agent 使用前の注意 3-4
- Backup Agent のインストール
 - 「Backup Agent, インストール」を参照
- Backup Agent の組み込み
 - バックアップ ソフトウェアへ 2-9
- Backup Agent のリモート操作 3-6
 - Backup Agent 3-6
- Backup Agent はログ ファイルを作成しますか? 2-9
- Backup Agent 用に Pervasive Control Center (PCC) で何か設定する必要がありますか? 2-9
- Backup Agent を使用する理由 3-3
- Backup Agent (CLI) ステータスの要求. 3-11
- Backup Agent (CLI) ヘルプの表示 3-12
- Backup Agent (CLI) を無効にする 3-11
- Backup Agent (CLI) を有効にする 3-11
- Backup Agent (GUI) オンライン ヘルプの表示 3-18
- Backup Agent (GUI) ユーティリティの開始 3-14
- Backup Agent (GUI) ユーティリティの終了 3-18
- Backup Agent (GUI) ログ ファイルを表示する 3-17
- Backup Agent (GUI) を無効にする 3-16
- Backup Agent (GUI) を有効にする 3-15

C

- Continuous オペレーション
 - Maintenance ユーティリティ 3-8

アーカイブ ロギング	3-8
概要	3-2
テンポラリ デルタ ファイル	3-2
Continuous オペレーションの開始	3-2
Continuous オペレーションの概要	3-2
Continuous オペレーションの停止	3-2

G

GUI ユーティリティ	1-3
-------------------	-----

M

Maintenance ユーティリティ	3-8
---------------------------	-----

P

PCC の終了	
Windows 上でのインストール	2-3
Pervasive Backup Agent のアンインストール 2-12	
Pervasive Backup Agent のインストール	2-6
Pervasive Backup Agent の概要	1-2
Pervasive Backup Agent ファイルはどこにインストールされますか?	2-9
Pervasive PSQL	
ファイルのロケーション	2-9
Pervasive PSQL エンジン	
アンインストール	2-9
Pervasive PSQL エンジンをアンインストールしてから再インストールする必要があるがありました。Backup Agent が動作しなくなったのはなぜですか?	2-9
PvBackupGetLogDir()	A-5
PvBackupGetLogDirW()	A-6
PvBackupGetStatus()	A-4
PvBackupSetOff()	A-3
PvBackupSetOn()	A-2

R

Readme ファイル	2-4
Windows 上	2-4, 2-5, 2-7
Readme ファイルの表示	2-7

W

Windows プラットフォームに関する注記	2-5
------------------------	-----

あ

アーカイブ ロギング	2-3, 3-4, 3-8
アプリケーションの一部としての Backup Agent のインストール	2-11
アンインストール	
Backup Agent	
Windows 上	2-12
Pervasive PSQL エンジン	2-9

い

一貫性保守可能なファイル リスト	1-4
Backup Agent	1-4
イベント ハンドラ	1-4
Backup Agent	1-4
インストール	
Windows アプリケーションの一部としての Backup Agent	2-11
概要	
Windows 用	2-2
事前の注意	
Windows 上でのインストール前	2-3
チェックリスト	
Windows 上の Backup Agent	2-3
アーカイブ ロギング	2-3
インストール後の操作に関する一般的な質問 2-9	
インストールする場所	
Windows 上	2-2
インストール チェックリスト	2-3
インストールの概要	2-2

え

エンジンの停止と再起動	
Windows 上でのインストール時	2-3

お

お使いのバックアップ ソフトウェアへの組み込み	3-12
-------------------------------	------

か

概要	
Backup Agent	1-2
Continuous オペレーション	3-2
Windows 上でのインストール	2-2

き

機能

Backup Agent 1-2

く

グラフィカル ユーザー インターフェイス ユーティリティ

Backup Agent 1-3

こ

コマンドライン ユーティリティ 1-3

Backup Agent 1-3

コントローラ 1-3

Backup Agent 1-3

コンポーネント

Backup Agent 1-3

さ

サイレント インストール

Windows 上 2-11

サイレント インストールの実行方法 2-11

し

システム障害 3-8

事前の確認 2-5

事前の注意 2-3

アーカイブ ロギングの無効化 2-3, 3-4

質問

Backup Agent のインストール後 2-9

除外対象ファイル リスト 1-4, 3-9

せ

設定

Backup Agent 2-9

そ

その他のユーティリティの使用 3-6

Windows 上の Backup Agent 3-6

ソフトウェア開発キット (SDK) 1-5

Backup Agent 1-5

つ

次に行くこと 2-8

て

デルタ ファイル 3-2

テンポラリ デルタ ファイル 3-2

テンポラリ ファイル 3-5

Backup Agent 3-5

と

どのようにして Backup Agent をバックアップ
ソフトウェアに組み込めばよいですか?
2-9

の

..... 2-2

は

ハードウェア要件 2-3

パフォーマンスの問題 3-7

Backup Agent の使用 3-7

ひ

必要なハードウェア

Backup Agent のインストール 2-3

ふ

ファイル

テンポラリ デルタ 3-2

ファイルのバックアップ

Backup Agent のインストール 2-3

ファイルのロケーション

Pervasive PSQL 用 2-9

ファイルを Continuous オペレーションの対象
外に設定する 3-9

プログラマーズ リファレンス

Backup Agent A-1

ほ

本製品の機能 1-2

よ

読み取り専用ディレクトリのファイル 3-6

読み取り専用ファイル 3-6

ら

ライセンス.....	1-6
全般.....	1-6
テンポラリからのアップグレード	
Windows 上.....	1-6

り

リード オンリー	
ディレクトリ	3-6
ファイル	3-6
リカバリ スタートアップ タイムアウト ..	3-7

ろ

ログ ファイル.....	1-4
Backup Agent	1-4
ロケーション	
インストールされるファイル	2-9